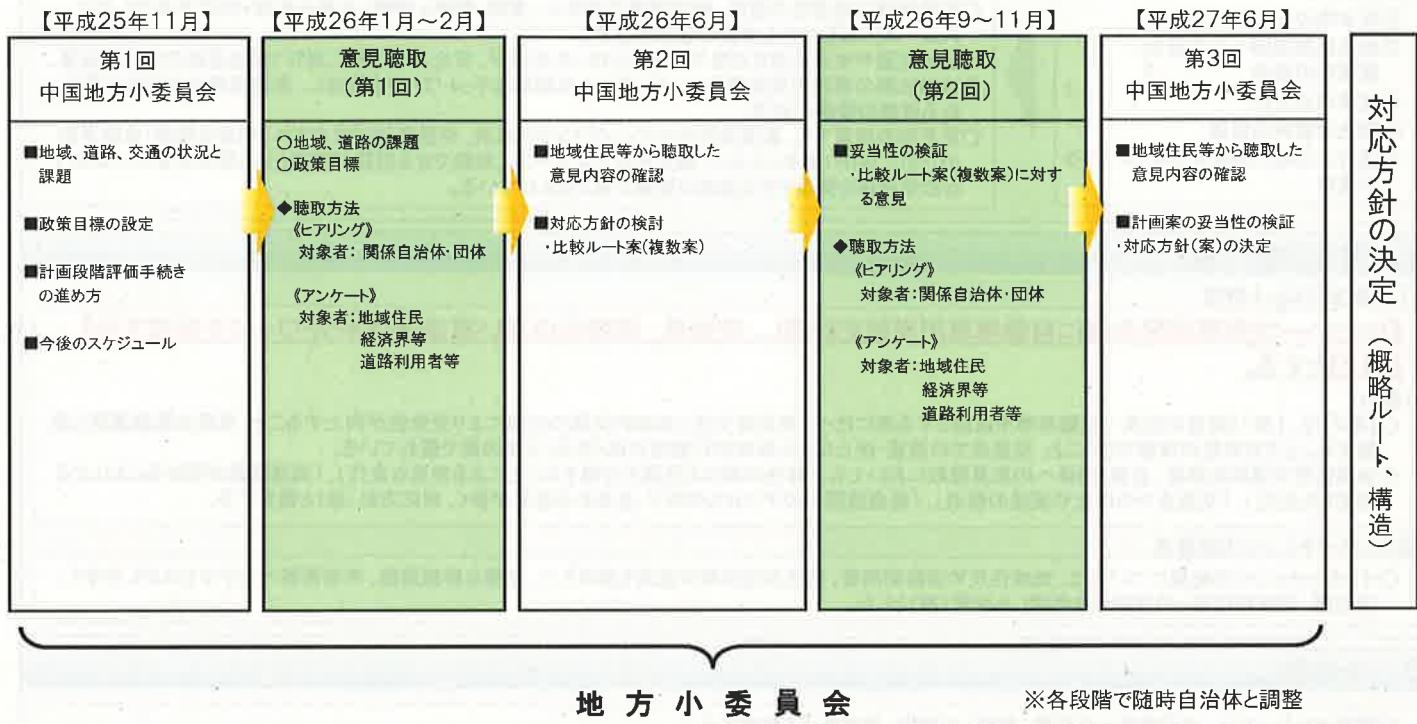


1. 計画段階評価手続きの進め方、スケジュール：対応方針決定までの流れ

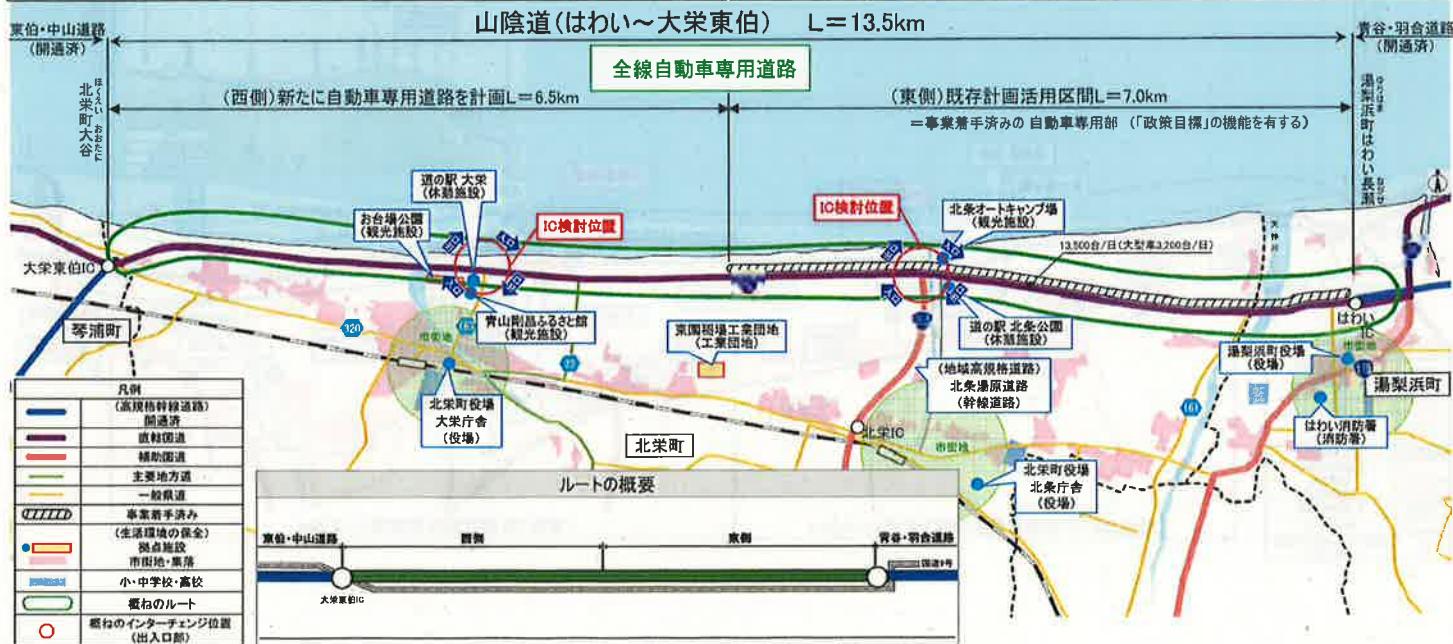
地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画[概略の計画案(複数案)]について検討を行う。



2. 対応方針（原案）の検討

- はわい～大栄東伯間全線に自動車専用道路を計画し、安全性、定時性の高い高速道路ネットワークを形成する。

【計画・ルートの考え方】 ・通過交通と地域交通を分離し、交通事故の危険が少ない計画。 ・事故や異常気象時にも幹線道路の通行止が生じにくい計画。 ・救急医療施設や鳥取県東部～西部の移動の円滑性を確保する計画。 ・景観上配慮すべき箇所や重要な史跡等への影響を避ける計画。 ・走行性の高い道路ネットワークを形成する計画。	【インターチェンジ配置の考え方】 ・主要な幹線道路との連絡性を考慮した計画。 ・市街地や集落との連絡性を考慮した計画。 ・道の駅や休憩可能な施設、災害時の拠点等との連絡性を考慮した計画。 ・観光施設、公園などの交流施設との連絡性を考慮した計画。
--	--



3. 対応方針（案）のまとめ 1

1. 道路整備の必要性

政策目標を実現できる道路整備を検討
【政策目標】

- ①安全性の向上
- ②救急医療機関への速達性、確実性の確保
- ③産業の活性化
- ④観光の振興の促進
- ⑤通行止め時に機能するネットワークの確保

○当該地域は様々な特性の交通が混在することによる事故が多く、事故による通行止めも発生しており、通行止め時に機能するネットワークの確保が必要。
○救急医療の速達性の確保、地域産業の活性化、東部・西部と連携した観光振興・交流促進のために、スムーズに移動できる道路の整備が必要。
○通過交通や生活交通など様々な特性を持った交通が、安全かつ円滑に通行できる道路の整備が必要。
○当該区間の東西の高速道路と一体となった広域的なネットワークを形成し、高速道路の連続性が保たれる道路の整備が必要。
○意見聴取結果でも、高速道路のミッシングリンクが解消、交通事故が減少され、円滑な救命・救助活動のために活用できるとともに、観光地までスムーズに移動できる道路が重要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路の整備が強く望まれている。

2. 対応方針（案）

①計画及びルート案

**『はわい～大栄東伯間全線に自動車専用道路を計画し、安全性、定時性の高い高速道路ネットワークを形成する』
【案2】とする。**

(理由)

○【案2】は、【案1】現道の改良+自動車専用道路とする案に比べ、長距離交通と地域内交通の分離により安全性が向上すること、東西の高速道路と連続することで定時性が確保できること、交差点での減速・停止による事故の可能性が低くなること等の面で優れている。
○地域住民や道路利用者、企業・団体への意見聴取においても、「特性の異なる交通を分離することによる安全な走行」、「高速道路が繋がることによる安定した走行」、「交差点での停止や減速の解消」、「医療機関へのアクセスの向上」を求める意見が多く、対応方針（案）と整合する。

②インターチェンジの配置案

○インターチェンジの配置については、地域住民や道路利用者、地方自治体等の意見も踏まえて、主要な幹線道路、市街地等へのアクセスがしやすく、道の駅、観光施設等との連絡性を考慮した配置（案）とした。

3. その他

○整備にあたっては、自然環境への影響、景観との調和、経済性にも配慮する。

4. 対応方針（案）のまとめ 2

• はわい～大栄東伯間全線に自動車専用道路を計画し、安全性、定時性の高い高速道路ネットワークを形成する。

